まちづくり交付金

# 倉吉打吹地区（くらよしうつぶきちく）

## 歴史的環境の保存・活用による地域の活性化と防災性の向上

整備前

整備後

写真 淀屋牧田家（倉吉打吹地区最古の町屋）

整備後

写真　伝統的建造物群保存地区の防災センター（くら用心）

整備前（火災により焼失）

## 事業の各段階のポイント

### 計画策定時のポイント

伝統的建造物群保存地区内で発生した火災による空洞化や、近年多方面から注目されつつある大阪淀屋と深いかかわりのある倉吉の豪商淀屋牧田家ゆかりの町屋（倉吉最古）の取り壊しなど、倉吉打吹地区の様々な危機を克服し、倉吉市のまちづくりのキャッチフレーズである、「遥かなまち倉吉～ほんものに出会えるまち（本物志向）～」の取り組みを通じて、地区の活性化を図ることが求められていた。

### 事業実施期間中のポイント

**～「遥かなまち倉吉」－ほんものに出会えるまち（本物志向）－の取り組み～**

地域創造支援事業として実施されたアーケードの撤去では、惜しまれたアーケードとして七夕祭りとあわせ、住民主体でさよならイベントを実施した。このようなイベントの開催や広報活動により、工事中の協力を得ることができた。また、倉吉淀屋について研究する「淀屋再生プロジェクト」が市民の中から立ち上がっており、年１回のサミットが開催されている。淀屋についての市民の関心を呼び、認知度が高まった。さらに、街なみ環境整備事業との調整・ＰＲにより、住宅修景も進んでいる。

### 事業完了後のポイント

住民主体の防災訓練や防災講演会等の積極的な実施による防災活動の推進や、淀屋牧田家が市指定文化財として保存されるなど、効果の発現があった。また、アーケードの撤去などにより古い町並みの発見や、飛龍閣の施設の充実などにより、観光客や利用者数、回遊客も増加してきている。

### 事業完了後のポイント

倉吉打吹地区では、重要伝統的建造物保存地区の拡大や街なみ環境事業の推進等、まちづくりにおけるハード面の展開が図られている。これに併せ、地域住民と連携・協働したソフト事業を推進する必要がある。

（注）事業の各段階のポイントは、各事業関係者より情報提供いただいた内容をとりまとめたものです。

## 事業の位置づけや背景

倉吉市第９次総合計画において、打吹地区の伝統的建造物群保存地区を含めた地域を歴史的文化地域として一体的な面的整備に努め、歴史的な景観を守り、文化財として活用効果を高めるとともに、地域文化の特性を活かした魅力ある観光の振興を図り、ゆとりと魅力を感じる交流拠点のまちづくりを図る地区として位置づけられている。

## 地区等の課題

**課題１**　再び火災が発生しないための、防火活動の推進が不可欠である。

**課題２**　淀屋牧田家の老朽化による取り壊しなど、まちなみが失われつつある。また、まちなみ活用・保存運動が一部の市民に限られる。

**課題３**　飛龍閣は、汎用性の高い和室構成と規模をそなえた施設であるが、後世に改変された部分について、周辺の公園の景観に配慮したものとする必要がある。

**課題４**　歴史的資源を観光資源に活用する取り組みを行っているが、周辺温泉地への来訪者の多くは倉吉打吹地区を素通りしている。

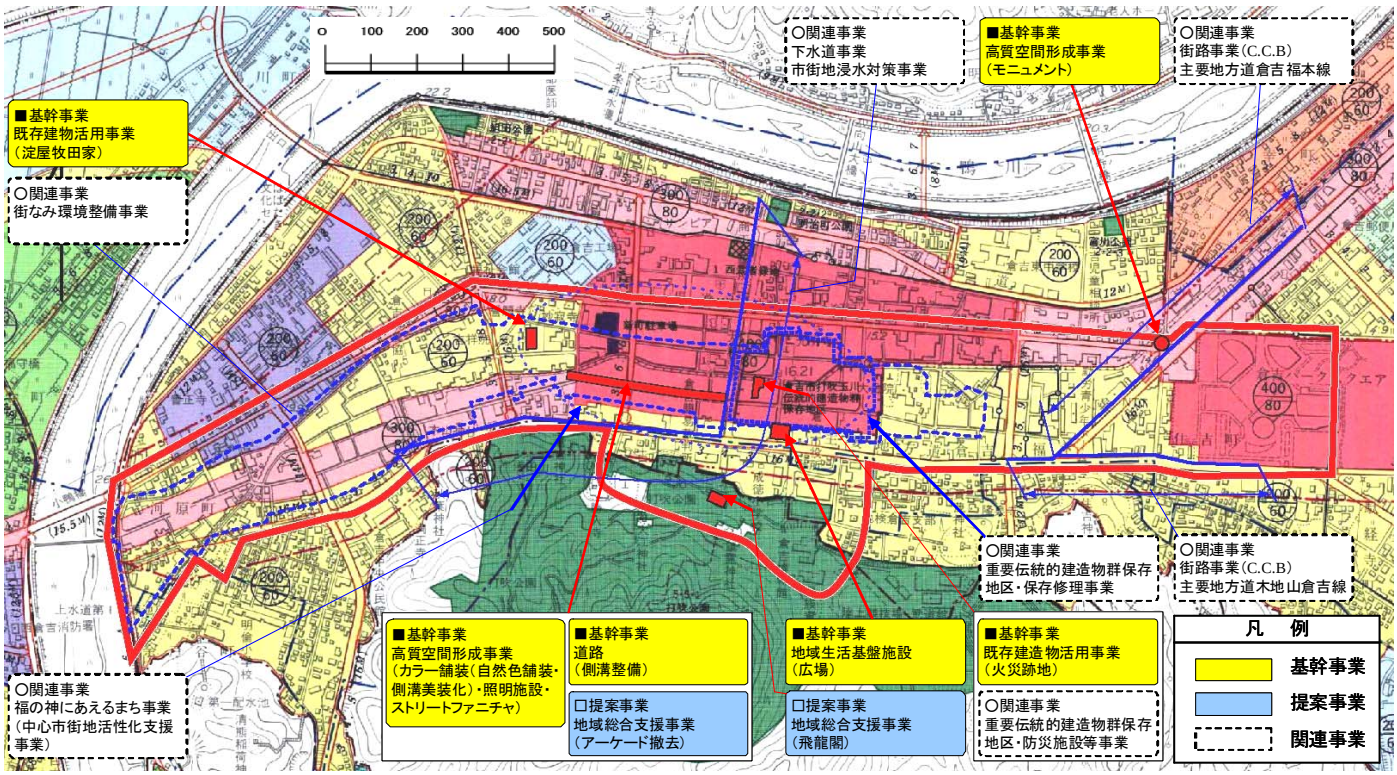


図　都市再生整備計画（整備方針概要図）

## 事業の目標・整備方針

［目標］

倉吉のまちづくりのキャッチフレーズである､「遥かなまち倉吉」～ほんものに出会えるまち(本物志向)～の取り組みを通じて､倉吉打吹地区の活性化を図る。

［整備目標と整備方針］

①伝統的建造物群保存地区での火災を二度と起こさない取り組みを推進する。

②次世代に残していきたい建物やまちなみなど広い意味での伝統文化の保存をおこなう。

③周辺温泉地に訪れる来訪者を倉吉打吹地区に誘導する。

### ■事業経緯

| | |
|---|---|
| 平成17年度 | 既存建造物活用事業（火災跡地） |
| 平成18～19年度 | 高質空間形成施設 |
| 平成18～20年度 | 既存建造物活用事業（淀屋牧田家） |
| 平成19年度 | 道路（側溝整備） |
| | 地域生活基盤施設（広場） |
| | 地域創造支援事業（アーケード撤去） |
| 平成20年度 | 道路（側溝整備） |
| 平成20～21年度 | 地域創造支援事業（飛龍閣） |

## 事業内容

防災と交流をテーマとしたまちづくり事業を実施する。

### ■事業計画諸元

○事　業　名：まちづくり交付金事業【倉吉打吹地区】
○事業主体：倉吉市
○位　　置：倉吉市打吹地区
○総事業費：約286百万円
○事業概要：
・地区面積：100ha
・計画期間：平成17年度～平成21年度
・構成事業：
【基幹事業】
◆道路（側溝整備　延長200m）
◆地域生活基盤施設（広場：１箇所　1,022　㎡）
◆高質空間形成施設
モニュメント整備：１箇所
カラー舗装：1,700　㎡
照明施設：14　基
◆既存建物活用事業
火災跡地［防災センターくら用心の土蔵３棟ほか］
淀屋牧田家：２棟　680㎡
【提案事業】
◆地域創造支援事業
アーケード撤去：延長300m
飛龍閣：既存建物活用１棟　178　㎡

## 主な事業の実施内容

### ■防災センター「くら用心」

きっかけ

平成15年5月13日の伝建地区火災を契機に、倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区を自分たちの手で守るべく「倉吉町並み保存会」が結成され、火災跡地に防災センターくら用心整備に合わせ、保存会による防災活動を開始した。

関 係 者：倉吉町並み保存会
（会長、会員94名・賛助会員41名）
倉吉町並み保存会自主防災会
（会長、会員15名）

事業スキーム：倉吉町並み保存会防災事業

- 地区住民参加による消防訓練の実施　約100,000円
  （春・秋の火災予防週間、文化財防火デー）
- 防災センターくら用心記念講演会　約60,000円
- 火災警報器設置助成事業　約50,000円

効果や今後の展望

倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区における歴史的景観の保存と、消防訓練と防災意識の向上を目指しており、地域住民の意識向上は図られつつある。また伝建地区の拡大を目指しながら、広い範囲での防災意識の取り組みを計画を進める。

住民すべての参加を目指すものの、一方で、地区住民の高齢化や独居化は参加者の固定化につながり複数回の出席が困難な状態もある。一人でも多くの参加を呼びかけ、住民の防災意識の向上を図る。

写真　くら用心整備前(H15火災)

写真　くら用心後（北向き）

### ■淀屋牧田家再生プロジェクト

きっかけ

昭和54年の倉吉市商家町並保存対策調査により確認された「旧牧田家住宅」は、宝暦10年（1760）に建築され、天保9年(1838)に付属屋が増築された、現存する町屋の最古の建物。大阪の豪商淀屋とのつながりある「淀屋」を屋号とするなど、その歴史的特性を有する。

平成16年度以降、市民有志による保存と活用の議論の結果、平成18年度に建物・土地の所有、19・20年度に建物保存修理事業を行うこととなった。

関 係 者：倉吉淀屋運営委員会（会長、委員11名）

東岩倉町自治公民館・明倫地区公民館協議会・明倫公民館ほか地区住民の方々が参画。

事業スキーム

- 住まい・職人の技inくらよし　約800,000円
- 第1回「旧暦七夕会」-昔遊び体験教室-　約50,000円
- 第1回倉吉淀屋邦楽鑑賞会（箏と尺八の調）　約50,000円

効果や今後の展望

平成20年11月の保存修理完成後の一般公開並びに、歴史的建造物である倉吉淀屋を活用したイベントは、大小あわせて10件にのぼり、見学者・参加者総数約8,300人（21年12月末）になる。

明倫地区・東岩倉地区を含め文化財建造物のすばらしさや歴史風土を伝える場として活用し、打吹玉川伝統的建造物群保存地区とあわせた交流の場とする。

写真　淀屋牧田家整備後

写真　淀屋牧田家の一般公開

### ■バス回転広場・バス待機所

周辺温泉地から来訪者を誘導するために、バス回転広場・バス待機所、周辺の景観に配慮した外構工事を実施する。

写真　バス回転広場整備前の状況

写真　バス回転広場整備後の状況

### ■アーケードの撤去

アーケードがある地区は、伝統的建造物が数多くあるが、以前は、歴史的景観を活かしたまちづくりについて関心が薄く、アーケードの撤去が行なわれていなかった。その後、伝統的建造物群保存地区において保存修理事業により、来訪者の増加がみられるなどから、歴史的景観を活かしたまちづくりを目指して、アーケードの撤去を実施した。

写真　アーケードの撤去

### ■飛龍閣の整備

木造平屋建の純和風の建物である。意匠は全体的に質素であるが、内装には豪華な材を用いており、皇太子行啓時代のおもかげを色濃く残している。

しかしながら、身障者に配慮した施設となっておらず、後世の改変により建物の風格を損ねた部分が見受けられる。交流施設及び気軽な交流休憩スペースとして活用できるよう、施設の充実を図った。

写真　飛龍閣

## 事業効果

1．防災活動の推進
2．まちなみ保存・活用の活動を推進する
3．来訪者を倉吉打吹地区に引き寄せる

### ■解消した事項

| | 整備前 | 評価値 |
|---|---|---|
| **指標１．** 防災活動参加者［人/年］ | 100(H16)→ | 168(H21) |
| **指標２．** 歴史的建造物（倉吉淀屋）の利活用者（見学含む）［人/年］ | 60(H16) → | 6,156(H21) |
| **指標３．** 年間観光客数［人/年］ | 300,000(H16) → | 383,646(H21) |
| **指標４．** 飛龍閣の利用回数［件/年］ | 30(H16) → | 56(H21) |

### ■課題の改善状況

町並み保存会が自主防災会として組織し、定期的に防火訓練・防災講演会等の防災活動を実施した。

淀屋牧田家は保存運動の成果により、市指定文化財として保存されることとなった。また修復後には一般公開や市報等による広報、また関係する他県との交流も含め他県での淀屋サミットの開催により多くの人々に歴史的建造物の周知が図られてきた。

バリアフリー化やオールシーズン仕様の施設の充実を図り、また公園内の景観に配慮した外壁等施設改修を実施できる。

アーケードの撤去とともに古い町並みが目に見えるようになり、道路・高質空間施設事業の効果も合わせ、足を伸ばさなかった観光客も徐々ではあるが回遊客も増加してきた。

### ■残された未解決の課題

高齢者世帯での自立防火活動への施設の充実を図る。

歴史的建造物を利活用したイベント等の継続・発展を図るとともに、今後の運営に向けた施設の充実等を図る必要がある。

歴史的建造物である飛龍閣への誘導施設（案内看板）を充実する必要がある。また、公園内の四季を通じて楽しめる樹木（特にさくら）の老朽化が進んでおり、これの対策が必要である。

景気低迷や社会環境の変化等により、周辺温泉地等への観光入り込み客は落ち込みが激しいなかで、周辺地域との連携を強化し、地域一帯の広域的な観光資源の充実を図り、地域全体の入り込み客の減少に対する施策が必要。周辺一帯の回遊性の充実を図ることにより誘客を継続・拡大することが必要である。

倉吉打吹地区は、行政と市民が協働で行っている「遥かなまち倉吉」の取り組み・活動等が評価され、まち交大賞「プロセス賞」を受賞！

写真　打吹地区歩行ネットワーク整備状況

## 今後のまちづくりの方策

**1．防火施設の充実を図る。**

・倉吉町並み保存会・自主防災会による消火･防災訓練だけでなく、周辺地区の各自治公民館と協働した防災活動の活発化を図る。
・さらに防災に対する意識の高揚を図り、身近な防災活動を推進する。

**2．歴史的建造物の利活用を推進する施設整備と運営組織の確立を図る。**

・一般公開と併せて集客的なイベント等の開催により、歴史的建造物の歴史認識の輪を広げる。
・倉吉淀屋運営委員会での議論を核としながら、倉吉淀屋を維持管理する組織の育成と運営資金の確保を図る。

**3．飛龍閣への誘導施設（案内看板）の充実と四季の景観を維持している樹木の再生を図る。**

・伝建地区の観光客を歴史的・文化的施設である飛龍閣にも来訪されるよう、ＨＰ・市報等で宣伝し、他課とも連携し利用拡大の施策を講じる。
・四季を通じて楽しめる公園の施設整備を図る。

**4．周辺地域全体での誘客に向けた回遊ルートの設定と誘導案内看板等の施設整備の充実を図る。**

・地域住民との連携による誘客ソフト事業の充実を図る。
・広域で連携し、広域で役割分担することによるメリットを活かす広域観光を積極的に展開し、周辺一帯で回遊性を高めていくことにより、周辺地域全体の入り込み客の下げ止まり状況から、回復を目指していく。

資料提供：鳥取県倉吉市